

# 善隣

No.538 通巻805

2023年（令和5年）8月1日発行（毎月1日発行）

2023

8



一般社団法人 国際善隣協会

令和5（2023）年度  
役員・顧問・諮問会委員名簿

会長 藤沼弘一

最高顧問（50音順）

古海建一

三原朝彦

顧問（50音順）

成田正路

藤原作弥

八島継男

外部顧問

武田勝年

学術顧問（50音順）

岡田実

加藤聖文

河合弘之

高原明生

田畑光永

松重充浩

村田忠禧

矢吹晋

常務理事（会長不在時の事務代行順）

（事務局長） 竹前栄男

藤川琢馬

渡辺澄江

理事（理事就任順）

日野正子

姜晋如

原田克子

鈴木重治

井出亜夫

常任監事

藤沼哲朗

監事（監事就任順）

塚原美津子

佐藤嘉信

諮問会委員（50音順）

秋元勇一郎

北野雅教

小林功

澤村宏

新宅久夫

鶴留エマ

村田嘉明

令和5（2023）年度  
常任委員会 委員長・副委員長・委員名簿

○環境委員会（9名）

委員長

姜晋如

副委員長

伊大知重男

委員

牛木久雄

澤村宏

杉山秀子

中村陽子

福島靖男

藤木英夫

村瀬廣

○国際交流委員会（10名）

委員長

姜晋如

副委員長

小野寺悠子

委員

岡田実

鈴木重治

竹前栄男

橋本敏

畑尾成道

藤井毅

村田嘉明

八島継男

○講演委員会（9名）

委員長

日野正子

副委員長

菅野智博

委員

井出亜夫

古閑哲

佐藤建吉

志村照彦

細川呉港

松重充浩

村田忠禧

○広報委員会（13名）

委員長

原田克子

副委員長

田畑光永

委員

朝浩之

伊大知重男

大類善啓

清水與二

姜晋如

瀬崎明

鶴留エマ

村田嘉明

渡辺澄江

渡邊澄子

○東北委員会（12名）

委員長

藤沼弘一

副委員長

渡辺澄江

委員

成多芳秀

加藤紘捷

菅野智博

鮫島明子

新宅久夫

鈴木重治

寺西修司

野木信洋

藤川琢馬

村瀬廣

○財政委員会（6名）

委員長

藤川琢馬

副委員長

藤沼弘一

委員

井出亜夫

古閑哲

清水與二

竹前栄男

# 善 隣

## 目 次

2023年 8 月号

令和 5 年度役員・顧問・諮問会委員名簿／常任委員会委員長・副委員長・委員名簿

### 公開講演会記録

世界一楽しいアフリカ講座……………萩原孝一 2

困難を乗り越える松下幸之助

——考えの根底にあるもの ……………佐藤嘉信 11

極秘「新竹原爆計画」からサイエンスパークに TSMC が生まれ、  
新竹 TSMC から上海 SMIC が生まれた

——台湾海峡兩岸の対立と和解の真相 ……………矢吹 晋 20

陶々俳壇 ……………馬場由紀子 29

中国ウォッチング ……………編・訳 上松玲子 30

協会通信・会員だより・同好会だより …………… 32

2023年 8 月の行事予定…………… 33

—— 善 隣 第538号 通巻805号 ——

2023 (令和 5) 年 8 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5  
一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03 (3573) 3051  
FAX 03 (3573) 1783

発行人 藤沼弘一

編 集 原田克子

編集協力 朝 浩之、山谷悦子

印刷所 (有)ゆにおんプレス  
TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

みんなの写真館…………… 32

(姜晋如)

—— 。 —— 。 —— 。 ——

当協会は、中国ならびに近隣諸国  
との相互理解を深め、友好親善・交  
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

## 公開講演会記録

## 世界一愉しいアフリカ講座

一般社団法人アフリカ協会特別研究員 萩原孝一



## 遠い大陸アフリカ

「ブラジル？」そのイケメン学生君はきっと自信がなかったのでしょうか。小首を傾げながら消え入りそうな声で呟きました。15年ほど前のことです。私がまだバリバリの現役国連職員時代に、某大学からゲスト講師として招かれ開催したアフリカ基礎講座の冒頭の一言です。

300名ほどの学生が集まった割には、教室内に漂う空気は無味乾燥なものでした。そこで、場を温めるつもり

で、簡単な質問から始めてみました。「アフリカにはいったいどんな国があるかな?」、その答えがブラジルだったのです。しかも教室内からは失笑さえなかったのです。不気味な静寂の中、私は卒倒寸前となりました。

結局、アフリカの国が出るまでに7人の学生を要してしまいました。日本では最高学府と呼ばれる館での出来事です。幼少の頃からアフリカは常にある存在だった私には、にわかには信じ難い事件でした。これは決して笑いの事ではなく、日本におけるアフリカの認識とはこんなものです。

実際、オールジャパンで世界地図を前にして正確にアフリカ大陸を指し示すことができるのは60%未満と推測されています。アフリカ協会特別研究員としてはそれを否定したくて、渋谷のスクランブル交差点で実験してみました。道行く人100人に世界地図を見せながらアフリカはどこかを尋ねてみたのです。

結果は惨憺たるものでした。最初に立ち止まってくれた女子大生3人組の間では、アフリカが大陸か国かを巡って喧々諤々の論争の末、意見が一致して指し示されたのは南米でした。25組

ほどが終了したあたりで私の心が折れてしまい、続行不能となりました。どうも鼻屑目に見ても日本人の半分はアフリカの位置がわかっていないように思われます。アフリカとアマゾンを混同しているようです。

それほどまでに、日本人にとってアフリカは遠い存在です。もしかすると、世界中で日本人ほどアフリカに関心が薄い国民はいないかもしれません。それにもかかわらず、多くの日本人がアフリカに対して似たようなステレオタイプイメージをもっています。なぜでしょうか？「遠い」「暑い」「貧しい」「危ない」という共通認識は間違いないメディアによるネガティブな情報だけが提供され続けた結果です。

今回の流行病でも見事に露呈したように、日本人は国やマスコミの言うことを素直に信じるという不思議な国民性があり、一度そのイメージをもつと梃子でも動かないようです。

ようやく2010年にサッカーワールドカップが南アフリカで開かれたことを切っ掛けに、アフリカは日本人に

とって少しは身近な存在となりました。残念ながらその後の新聞紙面やTV報道における存在感の低さには変わりなく、やれテロだ、内戦だ、疫病だ、災害だ、飢饉だ、餓死だ、という否定的なニュースのオンパレードです。

アフリカに一度も行ったこともなく、バーチャル世界を通じて見てきたような錯覚に陥り、その上メディアによって植え付けられた「思い込み」がずっと支配しています。

学校の授業でアフリカのことを学んだ記憶がありません。地理の授業でさえ、「かつてエジプトには優れた文明が発達し、世界の四大文明の一つといわれています。おしまい！」

その結果、日本は長年アフリカ人を「可哀想な人々」と勝手に位置づけ、施しのようにODA（政府開発援助）を続けてきました。日本としては一生懸命に国民の血税を駆使して、アフリカを助けてきたつもりですが、肝心なアフリカ諸国がそれほどありがたく受け止めていないのは隠し難い事実のようです。

一方中国は、アフリカをビジネスチャンスの大陸と位置づけ、母国の美しい未来のため果敢にアフリカに攻め入りました。そして今や推定100万人以上の中国人／中華系アフリカ人がアフリカ全土で暗躍し、総勢8000人弱の日本を圧倒しています。ひと昔以上も前にアフリカ域内で中国の文化変容は起きてしまっているのです。

日本はこの40年ほどODAにかまけてしまい、民間レベルの企業進出は全く停滞しています。政治不安定、治安悪化、インフラ不備、などを理由に様子見状態を続けてきました。その間にアフリカで起きた大きな変化を見逃すという国ぐるみの大失態を演じた結果、中国やその他の国々から大きく水をあけられているのが今日の現状です。

さあ、どうする日本！

## アフリカ基礎講座

確かにアフリカは遠いです。地理的にも精神的にも。しかし、AI全盛時代はこの言い訳はもはや通用しません。



歴史的なつながりが薄いのは事実ですが、日本がアフリカをこれ以上蔑ろにすると必ずや日本の未来に禍根を残すことになりかねません。

日本人にとってアフリカがよくわからない理由はいくつか考えられますが、一番の理由はアフリカの多様性です。アフリカは日本が80個以上も入る広い大陸で、自然環境の豊かさは日本人の想像以上です。アフリカはどこも暑いと多くの日本人が思い込んでいますが、間違いです。

初めにお断りすれば良かったのですが、この報告記でいう「アフリカ」とはサハラ砂漠以南のアフリカ（通称「サブサハラ」）を意味しています。地中海沿岸の国々（エジプト、リビア、チュニジア、アルジェリア、モロッコ、西サハラ）はアフリカ大陸内に位置していますが、民族、文化的には「サブサハラ」とは大きく異なります。

私が2年間赴任したケニアの赤道直下地域は標高が1500m以上あり、1年中温暖な気候に恵まれています。暑い時期でも気温は25度止まりで、寒

い時期は暖炉を焚くことしばしばです。ナイロビを走る車にエアコンは付いていません。季節は雨季と乾季に大別されますが、どちらも個人的には極めて穏やかだと感じました。

それでもやはりアフリカの自然環境は時として凄まじい形で人間に襲いかかります。私のケニア生活2年目（1984年）の乾季は例年の倍ぐらい続いたと後でわかりました。

極端に乾いた空気は、全国的に毛虫（army worm）の大量発生をもたらしました。我が家から見えるゴルフ場の8番コースはまるで茶色の動く絨毯のようで、まるで恐怖映画のシーンそのものでした。この時ばかりは、グリーンがブラウンと呼ばれるそうです。このゲジゲジたちが緑という緑を食べ尽くすのです。

当然ながらケニアの主穀物（とうもろこし）も甚大な被害を受けました。その結果とうもろこしの国際価格が暴騰し、輸入に頼らざるを得なくなったケニアの経済は疲弊し、人々の生活も困窮の一途をたどりました。

アフリカ事情をちゃんと理解していない若きJICA専門家にしてみれば、この程度の天候異変で国の経済が破綻してしまうことに驚きました。そしてそれはケニアの農業の在り方に問題あり、との見解に変わっていききました。

アフリカの人口は現在13億人ほどと推定されていますが、世界の人口動態との比較によれば、2050年には地球上に生まれ落ちる赤ん坊の2人に1人はアフリカ人である可能性が高いのです。つまりその時点でアフリカがどのような大陸であるかが、人類の浮沈を決めかねないのです。アフリカは遠い他人事では済まされない世の中がやってきたということです。

アフリカには現在54の独立国があることになっています。微妙な言い方をお許しください。これはあくまでも日本政府が承認している国の数が54あるということです。アフリカには東と西にそれぞれ1か国、国と定めるには少しファジーな地域があり、アフリカ人によっては56か国が正解という人もいます。

問題は、この五十数か国の背後に2500以上の民族グループがあることです。日本ではよく部族 (tribe) という言葉が使われますが、これは植民地時代の名残に似た上から目線な響きがあります。アフリカ協会員としては、民族グループという言葉を使うよう心掛けています。実際、アフリカの現地語にはtribeにあたる言葉が少ないそうです。

アフリカ人のほとんどは、自らが属する民族グループへの帰属意識の方が、国への帰属意識よりもはるかに強いといわれています。乱暴に言うところ、アフリカには2500からの独立国があるようなものです。この辺りの背景は、長い間「日本は単一民族国家」と思い込まされている日本人にはなかなか理解できないところです。

私が2年間滞在したケニアも45ほどの民族グループで成り立っていて、一つの国として治めることはなかなか難しいと感じました。実際一触即発的な小競り合いは今でも日常茶飯事です。そこにちょっと前までは国の商工業の60

%を牛耳っていたインド系が台頭し、さらには中国人グループが激しく参入してきたわけですから、事態は複雑です。

1884年秋、ドイツ首相ビスマルクの提唱で開催された会議には、列強14か国がベルリンに集結しました。悪名高きベルリン＝コンゴ会議です。名目はコンゴ地方におけるベルギーの侵出に対応して列強の利害を調停することでしたが、実際は100日かけて、「アフリカ分割」を定規とコンパスで列強間の責任分担を決めたということでもない国際会議でした。しかもこの会議にはアフリカ人の代表が一人も招かれませんでした。恐らく会議では2500ある民族グループの生活形態などは一切無視されたはずで、一刻も早くあの野蛮人たちを手懐けるにはどうしたら良いか？ そのためには唯一の宗教（キリスト教）を効率よく普及させる必要がある。という視点から、直線を引きまくり担当分担を明確にしました。その名残が今なお多数存在する不自然な直線の国境です。

ベルリン会議はアフリカの奴隷制度

に規制をかけたという肯定的な側面はあったらしいのですが、その後大陸が抱えた暗黒時代の始まりの象徴であることは間違いありません。

現在、アフリカには貧困を筆頭として、越えなければならない大きな問題が山積みです。第二次世界大戦後、欧米や日本が躍起となってODA合戦が繰り広げられましたが、「援助疲れ」と「援助慣れ」の不協和音が1990年初頭にピークに達しました。当時のソマリアにおける平和構築活動の失敗も相まって、国際社会は「もはやサブサハラにおいて経済発展は無理」とばかりに一斉にアフリカから手を引き始めました。アフロ・ペシミズムの波は世界中に広まりましたが、それに果敢に待ったをかける国がたった1か国だけありました。それが日本です。

アフリカの専門家たちはこぞってこの説をバカにしますが、これは日本政府がアフリカ問題において放った珍しいクリーンヒットだったことは間違いありません。その具体的な成果がTICAD（アフリカ開発会議）です。

## TICAD III

アフリカに少しでも関心のある人なら全員TICADのことは知っています。ところが、前述のように日本におけるアフリカの存在は微々たるものですから、オールジャパンでTICADを聞いたことがある、知っている人は全体の1割ぐらいではないでしょうか。

たまたまこの項を書いているのが我が家近くの喫茶店です。この2時間余りお店に出入りした21人に聞いてみました。「TICADを聞いたことがありますか？」結果は見事に「0」でした。かつて大学でこの質問をした時に手が挙がったのは300人中わずか数人でした。

TICADは冷戦終結後、アフリカ支援に対する先進国の関心が低下する中、日本が一躍国際舞台でその存在感を示す絶好の場となるはずでした。そこに至る過程はなかなか困難な道でした。そもそもTICADの目的は何か、ということに関しては今もって明確で

はありません。

南アフリカのアパルトヘイト政策撤回を契機として、アフリカ諸国の民主化や経済改革を支援していくという方針の下、会議が企画されたという話もありましたが、当時の意思決定過程については不明なことだらけです。

一方、当時から日本の悲願だった国連安保理の常任理事国入りに向けた国際キャンペーンの一環だったという説もあり、目的も目指すゴールも不明確のまま、1993年に第1回TICADが東京で開催されました。

TICADは日本政府が音頭を取り、国際連合、アフリカ連合、世界銀行との共催で開始される世界最大のアフリカ関連の国際会議です。1993年以降、1998年、2003年と5年置きに東京で開催され、2008年と2013年は横浜で開催されました。

その間に、「アフリカ開発に関する東京宣言」「東京行動計画」「東京10周年宣言」「横浜宣言」「横浜行動計画」などが採択されましたが、どれもこれも前例主義の枠を一步も外すことのない、アフリカ諸国にしてみればおざなりのような文言が続きます。

「TICAD I」から「TICAD V」に至る過程で、アフリカ元首の参加は5名から40名へと飛躍的に増加しました。同時に国際機関、民間企業、NPOの数も増え、プログラムもそれなりにカラフルなものとなり、日本政府は面目を保ったかに見えました。一方、その疲労感には日本政府全体に漂っていました。

2003年の「TICAD III」当時の小泉純一郎首相は、会議に参加した23か国の首脳全員と個別に会談しましたが、スケジュールが過密だったため「こんなに疲れたのは初めて。もうこりごりだ」とうっかり漏らしたとか。

それ以上にイライラを募らせていたのはTICADに毎回参加しているにもかかわらず、期待する成果を得られないアフリカ諸国です。特に日本政府への風当たりは強かったです。

結局、日本政府はTICADという場を提供するものの、アフリカ開発のために具体的な行動は何一つ起こさな



い、という評価に落ち着いてしまいました。「○○宣言」でも何となく開発に向かう数値目標を羅列してはいるが、それらはあくまでも努力目標であり、コミットメントとはほど遠い、というカラクリを見破られてしまいました。

それが爆発したのが、2013年横浜における「TICADV」だったのではないのでしょうか。開催中には「投資促進」や「貿易拡大」のテーマは掲げられていましたが、テコでも動きそうもない日本には業を煮やしている様がありありと見て取れました。

会議の最終日の総括演説は、かつてアフリカ統一機構の議長も務め、ウガンダ大統領として三十数年君臨し続けているムセベニさんによるものでした。最初から、この人たらし大統領は何かやってくれるという予感がありました。

案の定、冒頭から笑顔いっぱい、満員の聴衆を沸かせるような日本政府への謝意から始まりました。この大統領の話術には毎回舌を巻いてしまいます。その笑顔がわずか1分で消え失せ

真顔になった途端、今度は日本に対する恫喝が始まりました。

曰く「我々アフリカ諸国はこの30年間ずっと日本にラブコールを送り続けてきた。確かにODAに関しては日本政府に対して最大限の謝辞を送らせていただく。しかしODAはもう結構ですと10年以上前から申し上げているのはご存知の通り。」

我々が欲しいのは日本との対等なパートナーシップであり施してではない。しかもODAは日本のゼネコンや商社の懐は潤すものの、アフリカが得る恩恵はそれほど明らかではない。

アフリカが欲しいのは日本からの投資であり貿易である。残念ながら、このTICADをいくら続けても埒がつかないのがよくわかった。いいでしょう。これから我がアフリカ諸国はこぞって中国の「フォロー」となる覚悟があるが、日本の皆様はそれでよろしいのか？

アフリカはこう見えて、農業資源、鉱業資源に大変恵まれた大陸である。それらの資源は今後全て中国経由で買っ

ていただくことになるが、それで本当によろしいのか？」

これからは恐怖の演出でした。いつものお茶目なムセベニさんの笑顔が、会場の隅から隅まで舐め回したのです。眉を上げながら。背筋が凍るような場面でした。

再び、どうする日本！

アフリカがここまで強気になった背景があります。中国の後盾です。1980年以降の中国のアフリカ侵攻には目を見張るものがあります。それ以上には外交、貿易、安全保障、投資関係を促進するメカニズムを中国は強かに立ち上げたのです。それは、TICADに酷似した中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)というものです。

しかも賢くも会議は3年ごとに開き、開催地も中国とアフリカを交互にするというアフリカ諸国にとってはTICADよりもありがたい企画を2000年から実行しているのです。

TICADでは、首相が参加元首と平均15分の歓談でお茶を濁すのに対して、FOCACでは、中国は全参加国

に対して資金提供かプロジェクト実行という具体的なお土産付きで会談に臨みます。

この差は大きいです。ムセベニさんをして中国のフォロワーとなると言わしめてもむべなるかなでしょう。いったい中国政府はアフリカに対してどれほどの予算を投じているのでしょうか？ ひょっとしてその原資の一部は、元々日本から中国へのODA資金？など必要らぬ勘繰りもついて出てしまいます。

## これからの日本とアフリカ

確かに今のアフリカにおける日本と中国の存在を冷静に比較すると、絶望的であると言わざるを得ません。しかし今後日本が再びアフリカで台頭するチャンスがないかと言えば、そうではないような気がします。

日本政府はFOCACに対抗するつもりがあつてかどうかはわかりませんが、「TICADV」以降は会議を3年ごととし、開催も日本とアフリカ交互となり昨年2022年の「TICA

D VIII」はチュニジアで開催されました。

私が国連職員として関わっていた2012年以前のTICAD中、すでにFOCACの脅威を感じていた外務省の担当職員が「赤旗を上げたらどうか？」という勇気ある発言をしたことがあります。

最近では「TICADはもうソロソロ終わりそう」といううわさも聞くようになりました。アフリカのことを政治任せにする時代は終わっているのではないのでしょうか。これからは庶民の出番のような気がします。

TICADを果敢に提唱した日本政府にとって、アフリカは元々重荷だったことは間違いありません。Burden Sharing（重荷を分け合う）という発想に乗っかり、先進工業国とのODA争いに急場を凌ぎ続けたというのが実態です。

一方、中国は食糧事情など国運をかけてアフリカをBusiness Opportunityの大陸と位置づけ、官民挙げて護送船団方式をも駆使しながらアフリカに攻

め入った経過があります。

消極策と積極策の差がそのまま現在の状況へとつながっています。

ここからはアフリカ問題に対する私の超個人的見解とご理解ください。気分を悪くされる可能性は大ですが、ご容赦ください。

そもそもよその土地で覇権争いを続けることに問題があるような気がするのです。せっかくこの流行病が人類の分断から統合へのヒントを与えてくれているはずなのに。少し前までベーシックインカムなどは誰かが故意に作った絵空事のように思われましたが、最近のアメリカの金融機関の崩壊などを見ると満更でもないような気がしています。

流行病は恐らく、人類への警告のためをやってきた応援団みたいなものです。宇宙からの贈り物かもしれません。その最大のメッセージは、このままの仕組みや制度、在り方では人類はもたない。今は人類史上最大の変化が求められる時。変化したものだけが存続できる。これは進化論で知られるダーウィ

ンも言っています。

人類は進化の過程で、お金という便利な道具を発明しました。それは争いから争いに明け暮れる人類の近代史の始まりでもありました。その結果、有限の資源を巡り、そこに人種、国籍、宗教の違いが複雑に絡み合い、ずっと争い続けているのが人類です。全く愚かな存在としか言いようがありません。その最大の被害者がアフリカです。

この流行病によって、お金を巡って人類が翻弄され続けてきた時代の終わりの始まりを感じています。そんな非常識な視点からアフリカ問題を眺めると、見えてくる景色が全く違ってきます。

中国との覇権争いなどというおぞましい考えを捨て、どうしたら中国と手と手を携えアフリカの「幸せ」のために汗をかけるかを考えてみたらどうでしょうか？

こんなおバカなこと、日本政府やまともな民間企業が考えるはずがありませんから、当然ながら一般庶民の出番です。東京・北京間では全く歯牙にも

掛からない話でも草の根レベルならば話し合えると思いますが、いかがでしょうか。

そんな夢物語のような話をされてもおかしいでしょうが、今までそのことに一度もチャレンジすることなく、お互いの政府に任せきりにするから今のようないかなる必要のないがみ合いが続いているのは明らかです。

日本は中国の勢いに押し潰されてはいますが、かつてアフリカにおいて日本が関わったインフラ整備（橋、道路、通信設備など）の質には高い評価が与えられています。確かに中国の技術革新の勢いはすさまじいものがあります。が、まだまだ日本にはかなわない分野はかなりあります。例えば伝統的な金属、食品、繊維加工技術などにはアフリカが必要としているものがたくさんあります。

日本には品質が良ければ必ず売れるという神話があり、途上国向けの安かろう悪かろうに手を出すことはプライドが許さない、という風潮が支配的でした。結果的にはそれがアフリカにお

けるガラパゴス現象となり、今やアフリカ域内のスーパーマーケットの商品の7割は中国製で、かつてあれほどもてはやされた日本の家電製品は隅に追いやられている始末です。

1970年代まで日本の家電メーカーは、いずれアフリカで白物を作るとの意気に燃え果敢に市場に食い込もうとしましたが、結局電力供給不足や不安定などを理由に全て撤退の憂き目に遭いました。少し前まで、日本のP社がタンザニアのダルエスサラームでアフリカ域内最高の乾電池を作っていました。が、今も操業を続けているのかいないのかネットを検索してもハッキリしません。

結局日本は投資促進のための条件がアフリカにはそろっていないということとで、商社も含めて一気にアフリカから手を引いてしまいました。その間にも、韓国グループは強かにも「無い無い尽くしだから、イノベーションを起こせる」の発想の元、綿密な市場調査を敢行しました。

その結果、例えば停電時にも数時間

電力が供給できるジェネレーターを内蔵した冷蔵庫を開発するなど、大きな市場を編み出しました。サムソンは西アフリカを中心に短期間の間に1兆円市場を作り上げたほです。

今日日本に必要なのは発想の大転換ではないでしょうか。アフリカ域内で中国と大人の関係を築き、日中合同でサクセスストーリーを一つでも二つでも作り上げたら事情が変わってくるのではないのでしょうか。中国共産党が変わることは期待できませんから、ここは流行病で企業の在り方を変えざるを得なくなった日本の中小企業に託したいところです。

実は今、伝統的な利益追求型から利他の精神に基づき社会貢献中心型へと移行する企業が増えています。流行病の下「企業はいつたい誰のためにあるのか？」を真面目に考えた末に出た結論「企業は社会の公器」という考えが浸透し始めているのです。

それとまだあまり目立ちませんが、20代、30代の若者たちが、穏やかな日本の「こころ」の文化を反映するコミュ

ニティ作りや、植林などの環境プロジェクトを構築したり、アートで域内融合を図ったりなど、この時代に相応しい発想が次から次へと生まれています。

金持ちになることが即幸せにはつながらないことは日本が証明済みです。戦争がどれほど残酷かは日本が一番知っています。この経験をフェアに途上国に伝える役目は日本が担っているはずです。このタイミングで日本は照れている場合ではありません。

日本は覚悟をもって中国と対峙して、知恵を出し合い表向きだけでも仲良くしてアフリカの開発と一緒に進める、というのはどうでしょうか。中国共産党が一带一路政策を掲げ世界征服を目指しているとしたら、アフリカへの蹂躪は止まるところを知らないでしょう。

それは一部のリーダーの脳が誤作動を起こしているだけの話で、その愚挙を真摯にいさめることができるのは我が国だけです。この覚悟を示せる格好の場がアフリカです。果たして日本がアフリカのホワイトナイトとなることができるのか。日本が世界の平安の

礎となることができるのか、試金石はアフリカです。

(2023年4月13日・公開講演会)

### 筆者略歴(はぎわら・こういち)

某大学から除籍処分を受けた後、渡米。カリフォルニア州立大学院、ジョージタウン大学院でそれぞれ人文地理学、社会人口学修士課程修了後、国際協力の道に進む。

1983〜85年、ケニアで2年間JICAの中小企業育成の専門家として勤務。

その後、国連専門機関(UNIDO)に工業開発官として採用される。

UNIDOでは途上国の産業開発支援を担当し、アフリカ20か国に日本からの技術移転や投資促進事業にユニークな成果を残す。

2011年12月、『スピリチュアル系国連職員、吼える!——ざまあみやがれ、今日も生きている』を発表。現在、全国各地で講演活動を行っている。



## 公開講演会記録

## 困難を乗り越える松下幸之助

## — 考えの根底にあるもの

佐藤嘉信（会員）

昨年、一部の善隣会員を松下政経塾に案内し『善隣』に寄稿したところ、

鄧小平の要請に応えた松下幸之助の話を頼まれた。善隣協会の交流活動に支障がでるほど今日の国際情勢は混乱の度を増しており、時代は違っても何かヒントになるのではないかと思ひ引き受けた。

中国が改革開放に転換する黎明期、1978（昭和53）年、鄧小平が来日し近代化への協力を要請した。

貧困・病弱・無学歴や大恐慌・戦争などの困難を乗り越え、一代でグローバル企業を築いた松下幸之助は、政治

経済体制の異なる近代化協力にどのように応じたのかを報告する。

## 浅草寺雷門再建にも協力した松下幸之助

浅草寺雷門が100年近く姿を消した時代がある。1865（慶応元）年の大火で雷門は焼失したままであったが、

松下幸之助の寄進によって1960（昭和35）年に再建された。自ら彫刻家の平櫛田中に龍神像を依頼した。10年に一度の大提灯の修復にも寄進に込めている。現在の大提灯は6代目。雷門は日本を代表する光景になり、国内外

から多くの人が訪ねる名所になった。

「こういうものはご縁」と話した松下幸之助から「人の心を明るく照らしたい」「売る前のお世辞より、売った後の奉仕、これこそ永久の客をつくる」などものの見方を教えこまれたことを思い起こす。

私は松下電器に入社し四国に配属された。入社式でしか知らない遠い存在だった松下幸之助が、入社4年目の秋、突然身近な人になった。あるプロジェクトのメンバーになり3か月報告し続けた。その直後に本社転勤となり、松下幸之助が94歳で亡くなるまでの14年



浅草雷門

間、日々その言動に触れたことから今日の報告になった。

### 生涯で三つの事業

松下幸之助（1894〔明治27〕年～1989〔平成元〕年）は、生涯で三つの事業を手掛けた。

23歳で「ものづくりで暮らしや社会を豊かに」しようと、松下電器産業（現パナソニック）を創業。戦争の悲惨さから「繁栄・幸福・平和を探究しよう」と、51歳で「PHH（Peace and Happiness through Prosperity）研

究所」創設。「理想社会のビジョンをつくり、実現するリーダーを養成」しようと、84歳で松下政経塾を設立。1964（昭和39）年、アメリカの『ライフ』誌は特集で、松下幸之助には五つの顔があると紹介した。「最高の産業人、最高所得者、思想家、雑誌発行者、ベストセラー作家」。著作は181冊。これらの事業を通じ「人類の繁栄・幸福・平和」を生涯探求した。

### 中国の人たちは松下幸之助の何に関心があるのか

コロナ前、中国から年間2000名以上の学生やビジネス関係者がパナソニックミュージアム松下幸之助歴史館や松下資料館を訪れた。リピーターもいる。私は中国で何度も松下幸之助の話をした。中国の方々の関心が高いのは「経営理念」「素直な心」「人づくり」「企業の永续性」「時代に合った経営」である。

生い立ちから紹介する。

### 逆境の中から生まれたものの見方

4歳のとき、父親が米相場に手を出して失敗し没落、一家は困窮し家族離散。幸之助は小学校を4年生で中退し、わずか9歳で丁稚奉公に。11歳で父が病死。幸之助は15歳で肺炎カタルにかかる。生来病弱。17歳で母が病死。26歳のとき最後の家族だった姉が亡くなり天涯孤独。この過酷な運命をどのような考えで乗り越えたのか。

晩年に成功について問われると常に「運がよかった」と答えている。

「牛でも馬でもなく、人間に生まれてよかった」。破産してからは食事にも事欠いた。しかし「家が貧しく奉公にでたから商人の躰が身に付いた、貧しかったからどんな小さなことでも嬉しかった」と言い、「学問がなかったので、謙虚に教えるを乞うことができた、衆知を集める経営になった」「病弱だったが人に頼んで仕事をしてもらうことを覚え、仕事は人に任せるしかない」と日本で初めて事業部制を導入し、経営者が育った。「お金がなかったから、現金を生かした商売、健全経営になった」。

「世の中面白いもので、一見マイナ

スに見えることにも、プラスがある。物事がもつプラスの面に目を向ければ、悩みや不安も消え人生や社会発展の糧になる。そうならないのは、何かにとらわれた考え方があるからかもしれない。これまで、「素直な心」になろうと努めてきた理由はここにある」と。松下幸之助の「素直」は、人から言われたことを何でもハイハイと応えることを言うのではない。「何が正しいか、物事を利害・感情・知識・先入観などにとらわれずに観る」「ありのままの実相が見えてくる」「与えられた境涯に素直に生きる」「謙虚さ素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み、順境は自惚れを生む」「与えられた運命から逃げることなく、真正面から取り組み、道はひらける」というのだ。

また「人間は繁栄、平和、幸福を願いながらどうして不幸に陥るのか、戦後の混乱からこれが人間の本来あるべき姿なのか」という疑問をいただき、物心両面の繁栄を生み出す人間と社会のあり方を研究する、やむにやまれぬ気持ちから、1946（昭和21）年、P

HP研究所を設立した。

### 「企業は社会の公器」と気づき、経営理念が生まれた

9歳から大阪船場で商いの世界に入り、火鉢店へ、次は自転車店に。ここで身に付いた商人の心構えが生涯の財産になったことから自転車産業への恩返しに、パナソニックが自転車業界に参入した歴史がある。15歳のとき路面電車を見て電気にあこがれ、店を飛び出し関西電力の前身、大阪電灯に入社。電気配線工事に携わり、その経験から二股ソケットを考案、試作品を上司に見せるも否決され、自分でやることを決意。1918（大正7）年、23歳で松下電気器具製作所（現パナソニック）を創業し、妻と妻の弟の3人でソケット製造に着手。電池式ランプ、アイロン、ラジオなどに次々取り組んだ。しかし、従業員も増え、扱うお金も増える中、「このままでよいのだろうか」「会社は何のためにあるのか」「この会社はどんなやり方で仕事をするのか」を考えるようになったという。

企業が儲からないと、給与も払えない、税も納められない。そうになると国家経営はどう営むのか。企業が利益を出すことで人々や社会も国家も発展する。暴利は論外だが適正利益の確保は企業の社会的義務、企業は社会とにもある。企業は「私」のものではない「公」のもの、「企業は社会の公器」であることに気づいたというのだ。最初から経営理念を考えて事業を始めたわけではなく、それまでは食わんがために黙々と働いたという。人に教えられ、世間に教えられ、仕事に教えられながら、「企業は社会の公器」の考えになった。1932（昭和7）年、168名の社員を集め、この会社は何のためにあるのか、どんなやり方で進めていくのか、松下電器の使命を発表した。「私たちの使命は事業を通じ、社会生活の改善と向上、世界文化の進展に寄与すること」。250年かけて世界の隅々まで、一代ではできないから25年を一代とすれば10代かければできる。パナソニックにはこの250年計画が今も生きている。仕事の進め方は「企業は

社会の公器」だから、何が正しいかを考え「お客様第一」。仕事は同じ繰り返しではなく「日に新た」と示している。松下幸之助が会社の使命を示した、この日を創業記念日にしている。

### ものを作る前に人をつくる

松下幸之助は3人で事業をスタートし、金も技術も伝統や信用もない中、生産と教育を同時に行う工場学校の夢をいだき店員養成所をつくった。小学校卒業の人を対象に勉強4時間、実習4時間、3年制、生産と教育を同時にする。目標や計画があるものは全て経営と考えた松下幸之助は「人に言われて、その通りやる程度では知れている、一人ひとりが自分の仕事を稼業とする商店主、会社の社長と考えれば、一社員であっても、社会人、経営者、責任者の自覚ある人が育つ」「事業は人にある」と考え、自分の頭で考える人、経営感覚をもつ人を育てた。

### 「利益は社会に貢献した報酬」という利益観

およそ事業の目的は社会生活の改善と向上にある、とした松下幸之助は「利益は社会に貢献の度合いに応じて与えられる」、もし利益を得ることを事業目的としたら、利益を得ることに専念するあまり、人間は汚い手を考えやすく社会の支持を失う、と企業の不正や不祥事を想定していた。一方、利益を生み出せない経営は社会に何ら貢献していないから「赤字は罪悪」。赤字の事業部長が呼ばれ、「きみはここに来るまで、どの道を歩いてきたのか」「小さくなって道の隅を歩いてきたか」と問われ、道は税金でつくられた公道である、赤字を出している事業部長は、道を通るにも通り方がある、身を縮めて通れというわけである。「利益は社会に貢献した報酬」「赤字は罪悪」「企業は社会の公器」を説きながら人を育てた。

### 仕事に向き合う姿勢

松下本社には毎日海外からの来訪者があり、その国の国旗が正面玄関に掲揚される。国内外のメディア取材も多

かった、インタビューに応じた松下幸之助を紹介する。

1961(昭和36)年、政治体制の異なる当時ソ連第一副首相ミコヤンが来訪した。ミコヤンは「私はソ連の人民を解放した」と話すと、松下幸之助は即座に「私は日本の女性を解放した」と応じた。洗濯機、掃除機、炊飯器、冷蔵庫などを手掛け、女性の過酷な家事労働から解放、ショッピング、観劇、趣味、教養などの時間を生み出し、日本の女性の暮らしを豊かにした自負がにじみ出ている。ミコヤンは「あなたは資本家だが偉い」と言った。その感想はミコヤンの著書にもある。

多くの実業家の中でも、特に松下幸之助は印象的だった。現代における説得術の達人だ。多くの経営者が土地を買い、儲けている。なぜあなたは土地を買わないのかと聞いた。「それはしない、僕の経営観です。松下電器は電気器具の会社、必要なものをつくって売る、そうしてみんなを潤す、それが目的の会社だからしない。僕は売人、計算できます。工場をつくるとき必要



な土地の倍の土地を買いその半分を高く売れば、工場はタダでできる。しかし、そんなことしたら、土地を必要とする人が困るでしょ」「私は何が正しいかを考えます」。

松下幸之助がどんなものの見方や考え方をするのかを理解いただいたところで、「鄧小平の要請にどう応じたか」報告する。

### 鄧小平来日のころ

1972（昭和47）年、日中国交正常化はしたものの、台湾に投資する企業とは取引しないという周恩来の4条件があり、日中間のビジネスは限定的であった。多くの企業は台湾企業と取引関係があり、松下電器も台湾松下電器がある。

1976（昭和51）年、毛沢東の死去とともに文化大革命が終わり、1978（昭和53）年の鄧小平来日となった。文化大革命から改革開放に転換する黎明期、中国には株式会社はまだまだなく、工業分野のほとんどが国有企業だった。そのころ松下電器は欧米、中南米、

アフリカ、東南アジアなど世界に56社の製造会社や販売会社をもつ企業。松下幸之助はすでに第一線から離れ、相談役（83歳）。指導者養成の松下政経塾を設立すると、9月に記者発表した。その翌月、10月28日土曜日、テレビ工場は振替出勤して歓迎、小雨の中、鄧小平を出迎えた。

工場にはカラーテレビや高速ファクシミリ、漢字プログラムシステム、ビデオカメラなどの製品を展示し実演説明した。電子レンジからシュウマイが湯気をたてて出されると、鄧小平がパクッと試食し会場がなごんだ。

松下幸之助との会談で、鄧小平は中国の立ち遅れた現実を語り「中国の近代化建設にお手伝いいただけますか」と電子産業での支援を求めた。松下幸之助は「21世紀に世界の繁栄の中心がくるアジアの時代」「日本と中国が手をたずさえて世界の繁栄、平和と幸福に貢献しなければなりません」「中国国民の生活向上に全力で支援する」と約束した。

### 第1回訪中

鄧小平の招聘に応え「単に商売をする技術を提供するのではなく、新しい経営のやり方を中国に根づかせ、近代化によって、中国の国民に幸せを与えた」「中国は人口も多く、国土も広く、中国はひとつの小世界、小地球、中国が潤えば他の世界が潤う、中国が行き詰まったら世界にその波紋がでる、これは先行投資、長い目で見た協力」との中国観をもって応じ、2回中国を訪問した。

1回目は1979年6月25日、国賓級の待遇で迎えられた。

人民大会堂で、鄧小平から「中国の電子工業は全てお任せする、万事よろしく」との発言があり、工場の視察や関係者との協議から「日中電子工業合弁構想」が生まれ、実現に向けた期待が寄せられた。

松下幸之助は帰国すると、大阪国際空港で記者会見し「中国は四つの近代化で、電子工業に重点を置いている、電子工業技術の進歩は日進月歩であり

事業経営は難しい、そのため中国政府は日本に協力を求めている。その規模も莫大で一社の力では不可能である。

日本の有力メーカーと中国の共同出資で合弁事業をしたいと強い要請を受けた。人類の4分の1を占める中国国民の生活文化の向上発展に寄与する重要性を強く感じた。同時に日本に寄せられたこの要請に感謝し、日本メーカーの首脳に実情を訴え、具体案を作成すると中国に約束した」と述べた。

翌朝の新聞に「日中電子工業合弁構想」は大々的に報道された。その後、メーカーや日本政府に説明し、松下電器はこの年からブラウン管のプラント輸出を開始した。他の日本メーカーは中国のインフラや法整備が進んでいないことから、合弁事業には参加しないが生産設備や技術許与に応えた。

## 第2回訪中

1980年6月、来日した華国鋒と会談した松下幸之助に再度訪中の要請があり、10月再び訪中した。

第2回訪問では、松下電器が単独で

「総合技術交流展」を上海と北京で開催した。

人民大会堂で鄧小平と会談し、「日中合弁構想は、日本の電機業界全体でまとめることはできないが、松下電器単独で中国との合弁会社をつくる」決意を伝えた。高齢を押して動いた松下幸之助の姿勢は、中国側に高く評価された。その後の中国事業の大きな推進力になった。人民大会堂には5回訪問している。

2回目は鄧小平の要請で政府機関、国有企業幹部対象の「経営講話」を2時間半行った。経営講話は国家経済委員会康世恩が代表して質問し、松下幸之助が答える対話形式で進められた。

質問は「企業の使命や役割」から始まり、松下幸之助が考えを述べた。

「資本主義体制下で、企業は何のためにあるか。国民生活や社会発展のために、人々に奉仕する。人民に奉仕する中国と実質的に同じ」「指導者は使命感に立つことが大事、これも中国と同じ」「国にどれだけの富があるかは物資を見ればわかる。利益を創造する物

資は生産力と関係がある、生産力が上がれば富が増える、しかし、生産力を上げるには消費がないと上がらない。消費を増やすには国民に収入と時間を与えなければならぬ。生産と消費をバランスよく発展させるために、一企業として週休2日制を導入し、「1日教養、1日休養」を実施していると紹介した（松下電器の週休2日制導入は公務員より27年早い）。

知財権やノウハウを自由諸国では売買している、それを認めることが中国で会社が成り立つ基礎である、と念押ししている。

## 合弁会社設立と人づくり

中国はインフラ建設や法整備が始まったばかり、松下電器と中国の共同チームは市場調査を行ったが、実務者の意見調整は困難を極めた。将来起こりうることを想定し、議論し、文書化する作業が進められた。

当時、中国は白黒テレビを生産していたが、中国製のブラウン管工場はなく、日本メーカーからの輸入に依存してい

た。そこで生産する商品は今後普及するカラーテレビ用のブラウン管になった。ブラウン管はテレビの基幹部品である。工場は近代化を指導する政府の人がいつでも来られる北京とした。合併契約にこぎつけ、会社設立の調印式は、1986年11月27日、松下幸之助の誕生日に人民大会堂で開催され、李鵬副総理、松下電器谷井昭雄社長、中江要介中国大使が出席した。

1987年、北京に松下彩色顕象管有限公司(BMCC)を設立、資本金は200億円(松下100億円、中国100億円)。松下にとっても極めて多額の投資であった。日中の物価差は20倍ぐらいあり、2000億円ぐらい集める感じだった。中国は、外貨が不足し高金利の時代、銀行から借り入れたが、極めて多額の投資であった。この事業に従事した松下の出向者は、プロジェクトに参加した北京市副市長のノートに「この事業は絶対に失敗できない」と大きく書かれていたのを覚えている、と。

松下電器がイニシアティブをとる経

営とし「企業は社会の公器」「使命感をもった経営」という松下幸之助の経営理念は、中国事業でも貫かれている。

松下電器の海外進出には六つの原則がある。

- ①その国の政府・国民に歓迎される企業になること。
- ②その国の法律・法規を遵守し、もしそれが不適切であると判断されれば、正々堂々と説得し、改善を要望すること。
- ③絶え間なく新技術を提供すること。
- ④その国で製造する商品は国際競争力を有すること。
- ⑤企業の拡大に必要とする資金は、自己(事業部)の事業努力により調達すること。
- ⑥現地スタッフの人材育成に努力し、積極的に登用すること。

この考え方は中国政府や関係者全員に説明している。中国の外資導入、外国技術導入の考え方にぴったり当てはまり、従業員大事や利益配分も中国政府は大賛成と公言している。

そして「ものをつくる前に人をつく

る」が開始された。

人事、経理など管理部門も含めた第1ライン250名全員が、日本で半年から1年にわたる研修をした。テレビ工場がある宇都宮で、社宅や寮に寝泊まりし実地研修が行われた。人事や経理も研修に参加し、研修会のテキストには松下幸之助の『実践経営哲学』(中国語訳)も使われている、松下電器では「経理は経営経理」の略と教えている。例えば、工場の経理が材料の相場も知らずに代金を払うのは経営経理ではない。材料がどれだけ使われているか、新しい材料になったら今までの材料とどう違うのか、材料は輸入品か国産か、コストにどう影響するかなどを把握し分析し、提言するのが経営経理の仕事、「経理の乱れは経営の乱れ」になる、と学び実践している。

人材育成が後々の経営に大きく生きている。研修を受けた社員は、あとで入社する人や社外対象の研修では講師となり、職種ごとに人材育成の仕組みを導入している。

## 激動の1989年、松下幸之助死去、生産開始、天安門事件

1989年4月27日、松下幸之助が死去し、工場では遺影を掲げ追悼した。同年4月には胡耀邦が亡くなり、追悼と民主化の集会在中国各地で行われていた。

工場は北京空港と人民大会堂の中間地点、天安門広場に近い。

6月3日午後、ブラウン管1号商品が完成し、出荷式を行った。その日の夜、天安門に兵士や装甲車が現れ、騒然となっていた。日本大使館は救援機を手配するなど、日本人に国外退去するよう指示が出た。松下の出向者が大使館に行くと「松下さんの場合は要にして急だから残ってやってください」と明言され、中国側の責任者、呉儀北京副市長はヘルメットをかぶって現れ「水、電気、ガスは確保する、私が責任をもつから帰らないように」と、日中協力で通常通りラインを動かした。一部の報道には非難もあったが、「松下が中国の孤立化を防ぐ役割を果

たした」「困ったときの友人こそ本当の友人」との評価は今も続いている。民族が違い、宗教、文化が違う海外の経営には、常に困難が待ち受けている。世界各地で活動する松下電器では、

それまでも現地会社が巻き込まれる事件に何度も遭遇している。1974年インドネシアの反日暴動、1975年ベトナム戦争、1979年イラン革命、1980年韓国貿易摩擦、1982年コストリカ販売会社社長誘拐殺害事件、1983年フィリピン政情不安、災害などの困難を乗り越えているのはその国の人々や社会とともにある企業として活動し、人を育てたことが功を奏している。

## 没後も松下幸之助の経営理念を中国の人々に

鄧小平の協力要請について松下幸之助は、「強く感じたのは、早く近代化しよう、という中国の人々の熱意。外国の技術を入れ、資本も借りようと誠心誠意われわれの協力を頼むという態度だった」「遣唐使をやっていた時分は、

中国から都市計画まで日本に入ってきたでしょ、同じように今度はこちらが返してあげようという考えをもつべきでしょう」といった活動は今も続く。

## 日本も海外から学んだ

松下幸之助は「日本も自力で難しいので、欧米の技術を入れ、今日の日本になった。あなたがたがおやりになることは、我々から見れば当然のことだ」と思うと話したら、えらく意気投合した」と述べている。

1951(昭和26)年、松下幸之助50歳、アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、オランダを視察し、1か月の予定が3か月になる。民主主義、技術、デザイン、電化生活、賃金などに強い印象を受け、「デザイン課設置」「技術提携」「事業買収」「ニューヨーク出張所開設」「週休2日制」「欧米並み賃金」などを次々と打ち出した。

## 井戸を掘った人を称える中国

改革開放40周年記念式典が2018年12月、人民大会堂で開催された。貢



献した10人の外国人が表彰され、松下幸之助に「中国改革友誼賞」が贈られた。

井戸を掘った人を称え、松下電器（現パナソニック）本社を歴代の首脳が訪ねている。1978年鄧小平、1980年華国鋒、1997年李鵬、2008年胡錦濤。井戸を掘った人を称える「飲水思源」の文化が脈々と続いており、2018年の改革開放40周年記念式典では中国の近代化に貢献した外国人10人が表彰された。日本人は松



「北京の松下記念館」国外に松下幸之助の記念館をつくるのは初めて

下幸之助と大平正芳。グローバル企業経営者は松下幸之助ただひとりだった。

### 人間大事と国際協力

松下幸之助は事業をする中で人と社会について探求し「人間は無限の能力をもっている」「人間大事」「衆知を集める」などの考え方、人間観をもっていた。

「生活習慣や風俗はもちろん違うが、どの国の人も人間としての基本的なものに変わりはないはずだ、世界の国々に工場をもっている、何万人という外国人を使っている、その経営者としての実感だ、人間みな同じであると思うところに経営の根本がある。人間を大事にする、松下イズムと呼ばれるものがあるとすれば、それは人間を大事にすることだという以外にない」。

「人間が生み出した知恵は、人類全体の価値として国境や人種、時代を越えて活かし合い協力し共同生活を高めるところに、他の動物と違った人間本来の特性がある。そのことを自覚し実践することなしに、繁栄・平和・幸福

は求められない。しかし、現実の世界は、分かち合うより利害の対立、いさかいや戦争が後を絶たない、共同して現代文明の正しい活かし方を考えるのが、人類の一員としてもつべき心構えだと思う」と。

経営は、数字で冷静に分析判断して手を打つことは必須だが、「短期志向」「近視眼的」モノの見方が世にあふれているように思える。人間を単に「コスト」や「物」としてとらえれば、非人間的なやり方になってしまふ。財界の鞍馬天狗と呼ばれ、松下電器の社外重役だった中山素平は「私も銀行家として算盤をはじくが、松下幸之助の算盤は、桁がちがう、まさに桁はずれの人」（PHPインタビューより）と評した。

松下幸之助が時代や国を越えて理解されるのは、「人間大事」の考えが経営だけでなく政治、経済、社会、国家にも当てはまるからだろう。この世の中を動かしているのは、結局は全て人間なのだから。

（2023年3月28日・公開講演会）

# 極秘「新竹原爆計画」からサイエンスパークにTSMC が生まれ、新竹TSMCから上海SMICが生まれた

## ——台湾海峡兩岸の対立と和解の真相

矢吹 晋（会員）

1964年、中国が初めて原爆実験に成功した。このニュースは世界に衝撃を与えたが、なかでも最も驚いたのは、台湾に亡命して、“大陸反攻”を主張していた蒋介石政権だった。蒋介石は国防部長蔣経国に命じて秘密裏に核兵器の開発を進める“新竹計画”を作成させた。これはおよそ12年以内に、台湾に原子炉を作り、ウラン鉱石からペリリウム原子を取り出し、精製分離工場を作る計画であった。もう一つは、重水加工工場とし、ウラニウムを燃焼させて高温降溫装置を作る。その予算として151・2億ドルを計上した。

蔣経国の指示により、“新竹計画”は、軍と関係の深い中山科学院傘下の台湾原子力（核能）研究所が担当することになった。建設に必要な設備は、台湾軍当局が西ドイツのジーメンス社から導入する。原子力設備の買付はきわめて敏感かつ政治的な課題なので、西ドイツ政府は台湾当局に対して、買付後の原子力設備は、国際原子力機関の安全管理体制下におかれることを明白に伝えた。これに対して、台湾軍当局は制約があまりにも多すぎて秘密計画に相応しくないと判断して、結局この買付計画は放棄した。

1967年に至るまで、“新竹計画”はほとんど進展しなかった。この年、有名な物理学者呉大猷（1907～2000）、「台湾における自然科学研究と教育の基礎を確立した」功績により、1984年に「アジアのノーベル賞」ともいわれる「マグサイサイ賞」を受賞）が米国から台湾に帰国し、台湾「国家安全会議科学發展指導委員会主任」のポストに就いた。呉大猷の台湾帰国によって、台湾の原爆計画は180度転換した。呉大猷は蒋介石に対して3か条の意見を提起した。①国際政治の観点から見ても、原子力利用の観点から

見ても、台湾が核兵器を製造することは上策ではない。②台湾の外貨準備は、数千万ドルにすぎない。原爆開発に用いるならば、費用を賄えず、後が続かない。③米国は台湾の動向をすべて掌握しており、台湾の秘密計画に気づいたならば、これを阻止するであろう。米台関係への悪影響は避けられないから、原爆計画は放棄するのが上策だと、呉大猷は計画断念を説いた。

蒋介石は呉大猷の提案を受け入れ、「新竹計画」の放棄を決断した。蒋介石は原爆計画の中止を決断したが、蔣経国国防部長のもとですでにスタートした原子力プロジェクトは、「桃園計画」と名を変えて、原子力の平和的利用、すなわち原子力発電を大義名分として継続された。カナダから小型の重水反応炉を輸入した。カナダはさらに中山科学院に対して、米国経由の重水とおよそ 25 kg の天然ウラン燃料棒を提供した。1969 年、重水反応炉が正式に動き始めた。同時に、原子力研究所では、天然ウラン燃料の工場と再処理施設およびベリリウム化学実験室も

スタートした。これらの施設は台湾国産であり、必要な設備はフランス、西ドイツ、米国などから輸入した。1972 年から 73 年にかけて、台湾で生産した天然ウラン燃料工場が生産を始め、南アフリカから輸入した天然ウランを含めて生産能力は年あたり 20 ～ 30 kg になり、科学研究用の反応炉に必要な 2 倍に達していた。

1971 ～ 72 年という時期は、まさにキッシンジャー秘密訪中、北京政府の国連代表権席次獲得、ニクソン訪中、田中角栄訪中によって、戦後の冷戦構造が大きな転換を遂げた時期である。台湾当局は自ら国連脱退の道を選び、米国政府は台湾の原子力「平和利用」計画に疑いを深めた。台湾当局の説明では、「平和利用」の研究だが、その管理要員のほとんどが軍人であり、しかも秘密保持が厳格に守られ、対外公開を避けていたことも一因であった。

蒋介石の高齢化（1976 年死去）に伴って、名実ともに台湾のストロングマンとなった蔣経国は、1973 年 11 月、産業基盤の整備と重化学工業の

振興を目的とし、9 項目の国家プロジェクトを発表し、大陸反攻のタテマエを事実上放棄し、政権の「台湾化・本土化」に向けて大きく舵を切った。南北高速道路の建設、西部縦貫鉄道の電化、北回り鉄道の敷設、桃園国際空港の建設、台中港の築港、蘇澳港の拡張、中国鋼鉄の創設、中国造船（現・台湾国際造船）の創設、石油化学プラントの建設、そしてまもなく原子力発電所 3 か所を含むプロジェクトが加えられ、「十大建設」と称されるようになった。経済発展により、民衆の生活を向上させることによって政権の延命を図る、いわゆる開発独裁作戦がスタートした。蔣経国の英断の背後に隠れているのが、中央研究院の第六代院長（1984 ～ 1993）として大きな貢献をなした呉大猷の見識であった。その具体的な提言などは陳永發編『追求卓越——中央研究院八十年 1928 ～ 2008』（全 3 巻、中央研究院、2008 年）に特記されている。際立った一例を挙げれば、原爆の新竹計画の代わりに、呉大猷が提起した新竹サイエンスパー

ク（新竹科学工業園区）構想だ。そこには数々の創意性に富む提言が含まれていたが、私が最も驚いたのは、中央研究院の理系部門にインキュベーター室を用意する提案であった。20世紀後半はデジタル革命が始まった時期だが、たとえばシリコンバレーから斬新なアイデアをもつ若者たちを招き、そのフィージビリティ研究をサポートする構想が含まれていた。

私は（財）東洋文庫から派遣されて、2008年9月後半の2週間を中央研究院の宿舍で暮らし、近代史研究所陳永発所長ら数人の研究員から直接、呉大猷院長および後任の李遠哲院長（ノーベル化学賞受賞）のサイエンスパークに対する貢献をヒアリングして、印象深いものを感じた。というのは、いま世界的な半導体市場の圧倒的な市場を制するTSMC（台湾積体回路製造）のファウンドリーを、設立まもない時期に新竹を訪問して、ファブレス企業（設計部門）とファウンドリー企業（受注生産部門）の分離こそが、半導体産業の要であることを十分に理解で

きないまま、生かじりした体験を想起したからだ。当時私は勤務先の横浜市立大学の留学生の相談相手を一手に引き受けていたので、台湾留学生に連れられて80年代末に新竹サイエンスパークTSMCを訪問していた。

台湾の新竹サイエンスパークにおけるハイテク産業の初期の発展を三上喜貴（長岡技術科学大学）「台湾の科学技術政策」（『JETRO技術情報』、383号、136頁、1998）は、

次のように紹介している。——1994年現在、同園区には半導体、電子計算機、通信機器を中心に165社の企業が立地し、その総売上高は1778億台湾ドル（約67億米ドル）に達した。売上高で見れば、台湾全体の製造業生産高の2・8%を占めるに過ぎないが、R&D支出額で見ると全企業のR&Dの12%が新竹園区内で行われた。またエレクトロニクス分野だけに限れば、

全国の約4分の1が新竹に集中している。人材面でも同様であり、園区内の総雇用者数は3万人余、全国の研究者の13%に相当する4000人余がこの

園区内で働いている。これらの研究者は園区内に立地する国立交通大学、清華大学や工業技術研究院との間での流動性が極めて高く、また米国などへ留学して帰国した研究者が多数集積している。——

さて近年の動向を見ると、新竹サイエンスパークは、2022年12月に、1980年以来的創立42周年を祝って、祝賀イベントを行った。——12月15日午前10時、サイエンスパークで開幕した祝賀式典には、同パーク産業協同組合李金恭理事長、国家科学および技術委員会陳宗權副主任委員、新竹県楊文科県長、新竹市李世珍副市长、立法院鄭正鈴委員らの来賓が参加した、と同パークのホームページは誇らしげに書いている。

## TSMCとは、半導体の“受注生産”企業

TSMCは1987年に台湾の新竹サイエンスパークで誕生した。TSMCは「ファウンドリー」と呼ばれる



「企業モデル」の先駆者だ。顧客の注文に応じて生産を行うから日本の「下請け企業」に似ているが、その実力は注文側をきりきり舞いさせるほど強い。半導体製品を自社ブランドTSMCの名でデザイン、生産し、市場に出すことはないから、消費者の目には映らない。TSMCという「ファウンドリー(foundry service) 企業モデル」は、そのパートナーたるファブレス企業(fabless industry)にも成功をもたらした。TSMCはいまや世界をリードする半導体ファウンドリー企業だ。

以下 TSMC Annual Report 2022 (March 12, 2023) から、同社の概況を読んでみよう。2022年における世界の顧客数は532社に増え、288の異なる技術を用いて、1万2698種の異なる製品を制作した。TSMCの生産する半導体チップは、グローバルな顧客に広範な製品を供給している。スーパーコンピューター、スマホ、モノのインターネット(IoT)、EV車、消費者用デジタルエレクトロニクス製品などである。当社は多様な製品を

供給できるので、需要のさまざまな変化に機動的に対応でき、予想される未来の投資にも健全に対応できる特徴が優れている。TSMCの2022年、年間生産能力は、12インチ・ウェハー(400mm)換算で1500万枚であった。これらの生産工場には、台湾の12インチ・ウェハー生産用ギガファブ生産ライン4台、8インチ・ウェハー(300mm)ファブ生産ライン4台、6インチ・ウェハー(200mm)ファブ生産ライン1台、完全子会社のTSMC南京工場の12インチ・ウェハー(400mm)ファブ1台、完全子会社の米国ウェハーテックおよびTSMC中国工場の8インチ・ウェハー(300mm)ファブ生産ライン2台が含まれる(中国ではインチ表記を用いず、ミリメートルで表記する)。2022年12月、TSMCは米国アリゾナに工場建設の方針を発表した。すなわち2024年に生産を開始する予定の米国TSMCアリゾナの第1工場(4ナノ技術製品)に加えて、アリゾナ州に第2工場(2026年に3ナノ技術製品)を建設すると発

表した。在米のこれら2つの工場の投資額は都合約400億ドルに上る。これが完成すると、アリゾナの2つの工場で、年産60万枚のウェハーを生産できる。その製品価格は投資額400億ドルをはるかに超えるであろう[矢吹注：米国政府が提供することを約束した補助金については触れていない。張忠謀(モリス・チャン)CEOは、補助金があれば工場を作らないと語った発言は有名だ]。さらに「日本の熊本工場は2024年完成」を目指している[矢吹注：熊本工場で生産されるウェハーは3ナノ、4ナノといった最先端ウェハーではなく、2桁台の中級品・普及品である。製品についての言及がないのは、そのためか]。

2022年にTSMCの成長は市場の広範な需要によって支えられてきた。5GやAIの普及がデジタル化変革を加速して市場を支えた。その主な用途は、スマホ、スパコン、IoT、EV車などである。しかしながら、これらの製品のサプライチェーンは、2022年過剰在庫に悩まされた。すなわちコ

ロナ禍に伴う過去2年の供給網の不確実性によるものであった。それゆえ2022年の後半には、サプライチェーンが在庫調整期に入り、TSMCの成長にも影響を与えた。今後を展望するとTSMCの在庫調整は、2023年上期まで続く見通しである。加えてインフレおよび成長率ダウンにより、消費需要も影響を受けよう。これら二つの要素に鑑みて、TSMCは2023年の世界的半導体市況を対前年比5%減と予想している。TSMC製品は、半導体サプライチェーンの上流サプライヤーとして、ファウンドリー部門は、スマホ、スパコン、IoT、EV車、デジタル家電を含むすべての主要プラットフォームにおける市場の健全な発展と密接に相關している。TSMCの高性能で電力効率の高いIC技術は、スマホ生産の携帯電話メーカーにとって不可欠な要件であり、高度に統合されたチップと高度な「3Dパッケージ設計」は、コスト、電力、フォームファクタ（ICのフットプリントと厚さ）を最適化するための必須の技術となって

いる。パフォーマンスと電力効率の高いCPU、GPU、NPU（「Neural network Processing Unit」）、ASIC（半導体回路の一つ）により、スパコン・プラットフォーム全体がより豊富で、より高度なプロセステクノロジー、高度な「3次元パッケージ」に向かって発展している。スマホ、スパコン、IoT、EV車、デジタル家電の五つの主要市場について、顧客需要の焦点は「プロセス技術中心」から「製品アプリケーション中心」にシフトしているという事実に対応して、TSMCは五つの対応する技術プラットフォームを構築し、包括的で競争力のあるロジックプロセス技術、特殊技術を顧客に提供する体制を整えている。

すなわち運転支援システム（自動運転システム）、車載インフォテインメント（車載機器により、情報・娯楽を提供）、およびEV車向けの5ナノFinFET（金属酸化膜半導体電界効果トランジスタ）である。FinFETと呼ばれる理由は、魚のヒレ状を形

成するため名付けられた。FinFETデバイスは主流の「相補型金属酸化膜半導体」よりもかなり速いスイッチング時間と高い電流密度をもつ。

原爆基地構想がこのような世界的企業を生み出すサイエンスパークに変身できたのは、現代物理学の父と尊敬される呉大猷やTSMCの創立者張忠謀ら中国人の知恵によるものだ。

ここでTSMCが、台湾海峡を挟んで対岸の上海にSMIC（中芯国際集成電路製造）というもう一つのIT企業を生んだことに触れたい。2000年4月3日、張汝京（リチャード・チャン）が上海市政府の資金で設立した。張汝京はかつて米国のテキサス・インスツルメンツで働いており、当時、のちにTSMCの創業者となる張忠謀の部下だった。その後張汝京は、台湾で設立した「世大積体電路」をTSMCに売却し、数百人の部下を連れて対岸の上海に渡った。SMICは8インチ（300mm）ウェハー工場からスタートし、3年後は世界4位のファウンドリーにまで成長した。2004年には香港証

券取引所とニューヨーク証券取引所に上場した。2008年、65ナノメートル技術レベルを公表した。SMICは2003年以来TSMC側から訴訟を起こされていたが、2009年、特許侵害をめぐる紛争で和解した（SMICの創業者・張汝京は辞任）。2012年後半に40ナノチップの製造を開始し、2015年には28ナノ製品ラインを立ち上げた。2019年、14ナノ技術を使った生産を開始するところまで、技術的前進を遂げた。これを恐れて、

2020年12月米国商務省産業安全保障局は「中国の軍民融合」が確認されたとしてSMICをブラックリストに加えた。この結果、SMICは高度な微細化に重要な極端紫外線（EUV）露光装置の調達が不可能になった。2022年7月、SMICの7ナノ・チップ生産が報告され（調査会社TechInsights）、同社はすでに1桁台後半のチップを生産する技術を習得したことが明らかになった。これはTSMCとサムスン電子に次ぐ成功であり、最先端のオランダ製EUV（極端紫外線）露光

装置に頼らず、「既存の機器を用いて7ナノ製品を生産した」ことで、特に注目を集めた。こうしてSMICは、2021年には売上高前年比が約4割増加という成果を出し、純利益においても2倍以上となった。

SMICの強み——SMICは、上述の通り国内企業との強いパイプが構築されており、最先端ロジック半導体に関する量産技術も備えている。SMICは、中国重点企業として、安定した国内需要の高さを強みとし、他の国内ファウンドリー企業に大きな差をつけて中国トップの位置に立つ。通信機器メーカー最大手の華為技術など多くの有力企業がSMICの供給に頼っている。華為技術自体もブラックリストに載せられ、米国との取引制限をかけられ、TSMCからの先端製品の出荷が規制されるなど、国内サプライヤーに頼らざるを得ないので、SMICに頼らざるを得ない。

SMICの7工場——SMICは現在、七つの工場（北京2、上海3、深圳2、天津1）を稼働させており、う

ち三つが6インチ・ウェハー工場で、四つが9インチ・ウェハー工場だ。SMICは設立当初、6インチ・ウェハー工場を建設し、実績ある技術に注力していた。同社は2001年に、上海当局からのサポートを受けて初めての工場を完成させているが、これは創立からわずか13か月後という非常に速いペースだった。そして2008年には、中国初となるロジック向けの9インチ工場の建設に着手している。

SMICの8工場一覧

| 工場名       | ウェハーの直径<br>(単位はミリメートル) | プロセス技術<br>(単位はナノメートル) | 生産容量<br>(1か月当たり) | 工場の位置 |
|-----------|------------------------|-----------------------|------------------|-------|
| 第2工場プラント1 | 300mm                  | 180-55nm              | 52,000枚          | 北京    |
| 第2工場プラント2 | 300mm                  | 40-28nm               | 50,000枚          | 北京    |
| 第1工場      | 200mm                  | 350-90nm              | 115,000枚         | 上海    |
| 第8工場プラント1 | 300mm                  | 28nmへ微細化              | 2,000枚           | 上海    |
| SN1工場     | 300mm                  | 14nmより微細              | 4,000枚           | 上海    |
| 第5工場      | 200mm                  | 350-90nm              | 55,000枚          | 深圳    |
| 第?工場      | 300mm                  | 不明                    | 不明               | 深圳    |
| 第7工場プラント1 | 200mm                  | 350-90nm              | 63,000枚          | 天津    |

注記：生産能力などは2020年第1四半期時点。  
出所：2020年第1四半期時点のSMICの工場

S M I Cは現在、6インチ（200mm）ウェハー工場において、成熟したロジックノードや専用プロセス技術を使用し、半導体チップを製造している。同社は、ミックスドシングナル／RFや、M E M S、P M I C、e N V Mなどに向けて、実にさまざまな種類の専用ノードを保有している。これらの技術はいずれも、かなり需要が高いことから、アナリストたちは、「6インチ（200mm）ウェハー工場の製造能力に対する需要は、今後数年間で拡大していく見込みだ」と予測している。

現在は、四つの9インチ・ウェハー工場を稼働させている。北京近郊にある二つの工場の1つ「第2工場プラント1」は、55〜180ナノプロセス技術を適用したウェハー処理が可能で、製造能力は月産で最大5万2000枚に達する。もう一方の「第2工場プラント2」は、28ナノ／40ナノプロセス技術を使用してウェハー処理を行い、製造能力は月産5万枚である（第2工場プラント1で使われている処理装置は、第2工場プラント2のプロセス技

術でも使用可能）。また、上海の9インチ・ウェハー工場「第8工場プラント1」は、2020年第1四半期の時点で、製造能力がわずか月産2000枚程度にとどまる。天津第1工場は、FinFETベースのプロセス技術向けに設計されている。さらに、深圳にある9インチ・ウェハー工場は現在、製造能力を拡大していると伝えられる。

S M I Cの9インチ・ウェハー工場の製造能力は、T S M Cの9インチ・ウェハー工場「ギガファブ」ほど大きくないが、「生産能力は、適用されるプロセス技術によって大きく変化する」。マルチパターニングの適用が増加すれば、ウェハーがクリーンルームの中にとどまる時間も長くなるためだ。規模が大きくなればコストは下がるが（ギガファブがウェハー当たりの稼働コストを削減できたのもこのため）、膨大な先行投資が必要だけでなく、高い稼働率が確実に保証されていなければならぬ。S M I Cにとって売上高シェアの大部分を占めているのが、成熟した実績あるプロセス技術である

という点を考慮すると、同社が中規模の工場にこだわるのは、正しい考えと受け取られている。

S M I Cの経営陣は、同社にはいずれ、最先端のプロセス技術を適用可能な大規模工場が必要になるということをよく理解している。香港に拠点を置く金融サービス会社BOCOM International Holdingsのアナリストを務めるChristopher Yim氏によると、S M I C最新の北京工場および上海工場は、かなり規模が大きく、さまざまな種類のツールを供給することができる。例えば、上海の300mm対応S N 1工場は、完全に設備を整えた場合、その建設コストは約100億米ドル規模に達し、製造能力は最大7万W S P Mを実現できる見込みだ。

HiSilicon（ハイシリコン）がS M I Cの14nmを採用——新しいプロセス技術の導入に関しては、S M I Cの進歩は目覚ましいものがある。2001年には、S M I Cの第1工場で0・25μmの製造技術を提供したが、2002



## 台湾TSMCから上海SMICが生まれた。まだ技術的に追いつけないが、格差は縮小中

|         | 65ナノメートル      | 40ナノ/45ナノ<br>メートル | 28ナノ<br>HKMG (High-K<br>Metal Gate) | 14ナノ/16ナノ<br>メートル | 12ナノメートル      | 7ナノ DUV<br>(深紫外線) | 7ナノ EUV<br>(極紫外線) |
|---------|---------------|-------------------|-------------------------------------|-------------------|---------------|-------------------|-------------------|
| 台湾 TSMC | 2006<br>第2四半期 | 2008<br>第4四半期     | 2011<br>第4四半期                       | 2015<br>第2四半期     | 2017<br>第4四半期 | 2018<br>第2四半期     | 2019<br>第2四半期     |
| 上海 SMIC | 2010<br>第3四半期 | 2012<br>第4四半期     | 2015<br>第3四半期                       | 2019<br>第4四半期     | ?             | 2021<br>第4四半期(?)  | ?                 |
| 技術的遅れ   | 4年3か月         | 4年                | 3年9か月                               | 4年                | ?             | 3年半               | ?                 |

年にはすでに0・18μmのロジック用プロセスの量産を開始している。2008年第1四半期には、多数のノードを提供し、65ナノ技術を発表した。最終的に、SMICは2012年後半に40ナノチップの製造を開始し、2015年には28ナノ製品ラインを立ち上げ、2019年後半には初のFinFETベースの14ナノプロセス技術を使った生産を開始することになる。

一方で、SM

ICは「不動のトップ」であるTSMCに比べると常に「約4年分の後れ」を取っている。開発のスピードアップとリスクの最小化を図るため、SMICでは早い時期から元TSMCの技術者を数百人規模で採用していたが、そうした技術者を通してTSMCのプロセス技術やプロセスフロー、レシピなどの提供を受けた。

Chartered Semiconductor Manufacturing (180ナノ)、IBM社(40/45ナノ、32ナノ、28ナノ)との間で、プロセスライセンス契約を締結している。他社から製造プロセスや関連技術を取得することで、SMICは必要なIP(知財特許)を獲得し、「成熟したプロセスを適用したチップの“第2の供給源”を求めているものの、大幅な再設計は望まない顧客」を獲得することができた。こうした取り組みにより、SMICはファウンドリー事業で目覚ましい成長を遂げ、2005年にはTSMC、UMC、Charteredに次ぐ世界第4位の専門ファウンドリーとなった。SMICは、最先端のプロセス技術で

は常に「TSMCの後塵」を拝してきたが、競争力のある価格設定、差別化、包括的なサプライチェーンを提供し、華為技術傘下のHiSilicon、Qualcomm(クアルコム)、Fingerprint Cardsなどの最大手を含む顧客にとっては十分なものであった。2020年第1四半期のSMICの売上高では、成熟したプロセス技術(250/350ナノ、40/45ナノ)が、92%を占めたが、28ナノと14ナノがそれぞれ6・5%、1・3%となっている。

HiSiliconは、SMICの14nmを採用した最初の企業の一つである。HiSiliconは同プロセスで、エントリレベルのスマートフォン向けのSOC「Kirin 710A」を製造したが、これはもともと、2018年にTSMCの12ナノで製造を開始したチップである。SMICの28ナノおよび14ナノの遅い立ち上げと、旧世代のプロセスが売上高の9割以上を占めていることは、必ずしも最先端プロセスを必要としないチップも多数あることを示唆する。例えば、通信、民生用機器、自動車、産

業用アプリケーション向けのICの多くは、かなり長いライフサイクルをもっている。さらに、多くの中国のチップメーカーは、実績のあるノードを求めて設計する傾向がある。これらの要因が、2020年第1四半期におけるSMICの工場稼働率98・5%という数字を説明している。一方、SMICの14ナノFinFETプロセスは、同社独自のものであり、「第2の製造委託先」として活用してもらうことは難しいことから、同プロセスが軌道に乗るまでにはしばらく時間がかかりそうだ。

華為技術は米国の先端チップ輸出禁止措置後、いち早くスマホ事業からの撤退を表明し、5G通信機器に集中する方針を明らかにしていたが、任正非CEOが2023年2月24日、上海交通大学で行った講演内容が話題となっている。「北京AFPⅡ時事」によると、中国通信機器大手の華為技術の創業者、任正非氏は、米国による一連の取引制限措置に対応するため、1万3000品目を超える部品の調達先を過去3年間に「国内製品に切り替えた」

と明かした。同大学は講演テキストを3月17日に公開したが、任氏は自社製品向けに4000点以上の回路基板を改めて開発したと説明した。「国内製の部品を確保できているため（主としてSMIC製品）、現在、当社の回路基板製造は安定している」と強調した。ただ、任氏は質疑応答で「中国国内での『先端半導体チップの製造』はまだ難しい」とし、「半導体分野で米国に追い付くためには、『何らかの他の方策』を探る必要がある」と述べた。

### 日の丸半導体 “敗北の教訓” を生かせない日本

2021年6月1日、衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会は、湯之上隆参考人（元日立の半導体技術者、『半導体有事』（文春新書、2023年）の著者）を招いて、日の丸半導体敗北の教訓をヒアリングした。湯之上は次のように述べた。

1980年代中旬に、日本は超高品質DRAMを製造して、世界シェア80

%を独占した。一方、1990年代にパソコンの時代が訪れても、相変わず超高品質DRAMを作り続けて、韓国の安く大量生産する破壊的技術に敗北した。日本半導体全体も、1980年代中旬でピークアウトした。シェアの低下を止めようとして、国家プロ、コンソーシアム、合併をやり続けた。しかし、病気の診断と処方の間違っていたので、全部失敗した。日本半導体は挽回不能だ。ここに税金をつぎ込むのは無駄だと思う。歴史的に、経産省、革新機構、政策銀行が出てきた時点でアウト。これは歴史的な事実だ。では、希望の光はないのか。今でも競争力が高い5種類から7種類の半導体製造装置、その部品の多数が日本製だ。製造材料については日本が圧倒的な競争力をもっている。強いものをより強くする、これを政策の第一に掲げるべきだと。

遺憾ながら、プロフェッショナル・湯之上隆の高見は無視され、経産省はラピダスのような失敗確実のプロジェクトに兆円を超える巨額の血税をつぎ込もうとしている。

# 陶々俳壇

句会  
陶陶結果  
2023年1月

兼題 「猫」

馬場由紀子

招き猫福呼べ富呼べ春隣

日野正子

○紅杓

招き猫はお多福や福助と並んで商売繁盛や金運を招く縁起物とされ、初詣など参詣の折、神社などの境内で置物、飾り物として見かける。中七の響きがよい。

○由紀子

そつです、そつです。我が陶々句会は「福富」さんで保っているのです。

○明良

春に期待する心はまだまだ枯れないで素晴らしい。

雲引かぬ銀機融けゆく冬の空

○二三四

空中の水蒸気量が多いと飛行機雲が長く残るらしい。晴れ渡った空に雲をほとんど引かない機影が遠ざかつていく。冬なら、は、真青な空に銀翼を光らせて飛ぶ飛行機は平和な社会では見とれてしまいますが、爆撃機では困ります。

○明良

真青な空に銀翼を光らせて飛ぶ飛行機は平和な社会では見とれてしまいますが、爆撃機では困ります。

○正堂

冬枯や高砂百合の鞘軽し

○明良

百合の気品高くすつきりと伸びた大きな花が美しかっただけに時期を過ぎて残った鞘は一層寂しい気がします。

屏風絵や二十日鼠の嫁入りぞ

○二三四

●正子

私の生年も両親の没年も鼠年だったのですが、屏風の贈り主はこの偶然に驚き、私はさらに十二月の投句とコメントから「嫁が君」という言葉を知り、驚きが重なりました。

大根食む腰椎ひとつ噛み合はぬ 松島二三四

○正子

ぎっくり腰でしょうか？ 激痛をとぼけての表現に味わいを感じられます。

○明良

大根の美味しい季節ですが畑仕事ゆえの腰の故障でしょうか。

○由紀子

大根は真っ直ぐでも曲がっていても、視覚的に滑らかな印象を受ける。その大根を食べながら、その一口一口が腰に響くのがどこなく気にかかるのか。滑らかとギクシャクの対比がすっとぼけて楽しい。

戦火止まん祈り捧げる初御空

○善一

日本は敗戦後、おだやかな平和が続いている。しかしいまだ世界のあちこちで戦火が絶えない。平和な日本から元日の朝その戦火が一日でも早く解決するよう祈りを捧げることであった。

○正子

戦争のない時代がないという摩訶不思議。

アパートのドアや小さき注連飾り

○正子

格子門しめ縄かけて年あらた

○正子

橋本紅杓

○正堂

元旦や五年日記帳改める

○正堂

紅つばみ黒き枝先年あらた

○善一

「紅つばみ」は「紅椿」の誤りではないか。「紅椿」が咲いて新しい年を迎えることができたと解釈した。

孫の打つ羽根に届かぬわが手足 瀬崎明良

○正子

情景が浮かび、可笑しくもあり、微笑ましくもあります。

○善一

女の子の正月の遊びの一つ「羽根つき」。活発な孫の打つ追羽根は前後左右につけざまに打ってくる。老いた自分にはそれについていけない。さびしいことだ。

○由紀子

孫の成長と我が身の老いと。嬉しくも悲しい、それがあるべき姿。

年明けも猫と潜みし炬燵かな

○紅杓

○二三四 「も」ということはふだんから…。

お年玉届かぬ国に孫は行き

○由紀子

悲しい定めのお孫さんかしら？ ただ、これでは連句の付となり発句(俳句)とするには弱いので「お年玉届かぬ孫の美空かな」のように切れ字を用いたい。

勅使門開け放たれるお元日

○紅杓

大内善一

猫の手も借りたく忙し女正月

○正堂

長き夜や湯宿に寄する虎落笛

○紅杓

●由紀子 「長き夜(秋)」「虎落笛(冬)」の季重なりは避けた。「持て余す湯宿の夜や虎落笛」とでも。

晩年を平和に生きて春近し

○明良

伊藤正堂

第二次大戦やベトナム戦争などは遠い昔になりました。遠くに砲声が聞こえているようです。

○由紀子

平和が続くよう祈ります。

畑帰りつるべ落しの大夕焼

○紅杓

○明良

日が短いだけに落ちるのも早いでしょうか。

波砕く岩いつぱいに千鳥かな 馬場由紀子

○正堂

冬の怒濤が岩をむかむか千鳥たちは岩いっばいに張りついているさま。

○善一

千鳥、チドリ科の鳥の総称。昼は海上、夜は渚や浜辺を歩きまわる。その姿は左右にゆれ、いわゆる千鳥足である。冬の怒濤が岩に打ち寄せ、その岩にたくさんの千鳥が来ている。

豊かなる鶏鳴のとき大旦

○紅杓

○二三四

# 中国

ウエブリンク

編・訳 上松玲子

## 卒業を保留する大学生

身近に様々な理由で卒業を延期する学生がいる、と調査に応じた大学生の73・1%が答えた。単位不足や学位論文未 completionなどが卒業延期の主要な理由だが、新卒の身分保留のために延期する者もいる。

武漢大学系列の学院（カレッジ）のチューター楊輝さんによれば「学位論文に対し教育主管部门が行うサンプル調査が厳格化されたという要因の他に、就職状況の厳しさがあ  
る」と説明する。就職に失敗

した学生が新卒の身分を保留するために延期するのだ。

就職に際しては卒業証書と学位証書の年度が新卒年度とされる。地域によっては就職先が見つからない場合、卒業後2年間は新卒とみなすとしているが、実際のところ何を以て新卒とするかは採用側次第、ポスト次第なのだ。

就職を理由に卒業延長を申請しようという学生には、まず就職に失敗したのは個人の能力、学校の教育、技能、目標設定のどれに問題があったのか考えるよう指導していると、楊輝さんはいう。ただ延長するだけでは意味がない。『中国青年報』2023年5月9日

## 歩きスマホに罰則

5月26日、「寧波市文明行為促進条例」が浙江省人民代表大会常務委員会で批准され、新たに「歩行者が交差点で、あるいは道路横断中に電子機

器を見ないこと」という規定が加えられた。つまり、「見ない」ことが提唱する事柄から、法律的な義務になったというわけで、重大な意味がある。

江蘇省交通警察によれば、歩行者がスマホを見ているとき、平均視野は通常のわずかに5%、歩行速度も16%から33%遅くなる。自転車も手放しや注意散漫による交通事故が、自動車以外の事故総数の79・8%にのぼる。これらを考えれば、法律で明確な罰則を定めることが、「首を垂れる」行為（原文「低頭」）に歯止めをかけることになり、確実な警告になるであろう。

『光明ネット』2023年5月31日

## 民生事業が非難されるわけ

白芒村は深圳市南山区西麗街道にある「城中村」、すなわち農村出身者が多く居住する都市の賃貸住宅エリア、都

会の村である。何百棟もの建物があり、1万人以上の人が暮らす。ここでの賃借人の生活が「統租改造」によって影響を受けているという。

「統租改造」とは国営企業が1帯の土地、不動産を接収管理し、街全体を整備した上で、再び賃貸に出すものだ。近年の環境整備事業によって深圳市の多くの城中村は生まれ変わった。防災対策、下水道、道路網整備などにおいて、以前の汚く乱雑な立ち遅れた環境は一新された。

深圳の新市民や若者の住居対策として、第14次5か年計画期間に20万戸の保障性賃貸住宅が供給される計画であり、その供給源として城中村が期待されているのだ。

かかる重大な民生プロジェクトを順調に進めるには、関係各局は整備地域における需給バランスや影響についての確な評価をする必要がある。



『央広ネット』2023年6月3日

## 第二京滬鉄道への期待

北京と上海を結ぶ高速鉄道「京滬高鉄」の迂回路線となる通称第二京滬鉄道は最後の空白を埋める鉄道として注目されている。今般山東省濰坊と江蘇省宿遷を結ぶ濰宿高速鉄道のフィジビリティスタディ報告が国家発展改革委員会で批准されたことで、着工へ大きな一歩を踏み出した。

第二京滬北京から天津、河北省、山東省、江蘇省を経て上海に至る路線で、現存の京滬高鉄の混雑緩和とともに沿線地域の発展が期待される。

現存の京滬高鉄の恩恵に最もあなかったのは安徽省。第二京滬は、山東省中部および江蘇省北部と中部に直接のメリットがあると思われる。現在計画されている40の駅のうち4分の3の30が山東省、江蘇省の駅だ。例えば、山東省の濱州、東営、濰坊、日照、臨沂や、江蘇省の徐州、宿遷、淮安、揚州、泰州、南通、蘇州などは直接的な恩恵が期待される。

江蘇省と山東省は国内で経済力ベスト3に入るとはいえ、省内の地域間格差は小さくない。江蘇省の北部や山東省の南部は経済的に立ち遅れ、交通の面でも不利な場所だ。全体図からも、新しい路線は北京、天津、河北省と山東半島、長三角地域の大都市の連携強化につながる事がわかる。

中国でも人口密度、経済密度が高いこの地域で人や資金、情報の流れが活発化すれば、潜在力がさらに発揮されるだろう。また、近年南北の発展格差が注目されている中、新線は東部沿海地域における南北の連携強化につながり、格差の是正に向けて重要な基礎となるだろう。

『澎湃新聞』2023年6月23日

## 夏休みのゲームを制限

国内複数のゲーム会社が夏休みの未成年者のゲーム時間制限策を共同で発表した。未成年者のアカウントは7月1日から8月31日までの間、毎週金、土、日の20時から21時までの間、つまり2か月間最大でも26時間に限りログインできるというものだ。

2021年8月30日に史上最も厳しいゲーム依存防止法が制定されて以来、未成年者のゲーム時間、課金ともに抑制されてきた。中国音像デジタル出版協会のゲーム工作委员会がCNG（伽馬新媒体公司の研究部門）と連合でまとめた『2022年中国ゲーム産業未成年者保護進展報告』によれば、上記新法発布以降、7割の未成年者のゲーム時間が毎週3時間以内に抑えられているという。

ゲーム依存抑制の最前線は

ゲームの会社。テンセントゲームを例にすると、2017年から未成年者保護体制を整備してきた。中国大陸では国家統一の実名認証システムと連動し、未成年であると確認されたアカウントには利用時間、内容、課金ともに制限をかけ、12歳以下の課金を禁じている。名義借し対策については、データ分析やAIなどの新技術により、プレイ中の特徴などから成りすましが疑われる場合は、顔認証を強化し、利用拒否または管理リストに入れるなどの対策をしている。さらに、不当行為を行う業者に対しては、警察に協力も求めている。

しかし、前述報告によれば、子どもに実名登録を許す親は僅か35%あまりで、未成年が親戚や友人の名前でアカウントを取得するケースが多いことがわかり、保護者の責任意識の欠如が明らかになっている。

『光明ネット』2023年6月30日



## ◆令和5年度第4回理事会の議題（6月8日開催）

定時社員総会後の新理事による初の理事会で、主な内容は次のとおりである。

### ●確認事項

5月25日に開催された第2回理事会、第12回定時社員総会、第3回臨時理事会の議事録（案）が確認された。

### ●決議事項

1. 各常任委員会の委員長から提示のあった副委員長、委員について承認した。

2. 新会員（平島正氏）の入会が承認された。

### ●報告事項

国際交流委員会から「太原植林事業に伴う視察旅行」についての説明があった。

## ◆令和5年度第2回諮問会（6月23日開催）

「常任委員会の構成」「将来検

討委員会からの提言」について意見交換をした。

（事務局長 竹前栄男）

## 会員だより

### ◎新会員

〈正会員〉 平島正氏

### ▼寄付

杉本静夫様より金三万円也

### ▼会員寄贈図書（本年4月以降）

・村田忠禧様より『中国ガバナンスのキーワード——日本の有識者が語る中国』（西園寺一晃編著）  
〈村田忠禧一五九〜一六五頁を執筆〉、東方書店

・石飛仁様より『花岡事件』（石飛仁／文・西川塾／絵、For beginners シリーズ 74、現代書館）

・大類善啓様より『エスペラント——分断された世界を繋ぐHomonarismo』（大類善啓著、批評社）

・加藤紘捷様より『ペストは冬、どこに潜むのか——満洲で身を

挺して解明に挑んだ医師』（加藤紘捷著、ロギカ書房）

・矢吹晋様より『チャイナウオッチ矢吹晋著作選集』全五巻（矢吹晋著、朝浩之編、未知谷）

※寄贈された図書は7階会員談話室で閲覧できます。

## みんなの写真館

6月に訪れたベルギー王国は、美しい建築物と豊かな食文化をもつ魅力的な国です。ベルギーに旅行したら必ず訪れたいスポットが、有名な小便小僧の銅像でしょう。小便小僧は、ベルギーの首都ブリュッセルの中心部に設置されている少年の銅像。公式の身長は55・5センチメートル、重量は17キログラムです。この像に關して、さまざまな説がありますが、広く知られるのは、中世におけるベルギーと反政府軍との内戦時、反政府軍はブリュッセルを爆破しようとしたが、ひとりの少年が導火線に小便をかけ、爆弾の火を消してし

## 同好会だより

### 〈俳句会〉

対面とオンラインでの俳句会を開催しています。

### 〈謡曲会〉

松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。

まいりました。これによって町は救われ、少年は救世主として讃えられることとなったのです。小便小僧は、シンガポールの「マライオン像」、デンマークの「人魚姫像」と並ぶ「世界三大がっかりスポット」に挙げられています。ちなみに、あまり知られていないのは同じブリュッセルにある小便少女で、しゃがんで放尿中の少女像です。レストランのオーナーが客寄せのために、彫刻家を作ってもらい、1987年に落成式が行われました。かわいい小便小僧と比べれば、あまりにリアルな小便少女像をみると、何とも言えない複雑な気持ちでした。（姜晋如）

## 2023年8月の行事予定

8日（火） 14：00 謡曲会（松木千俊先生お稽古）

9日（水） 13：00 俳句会（Zoom方式で実施）  
兼題「返す」及び当季雑詠から5句を投句（7月末までに）

※8月14日（月）～16日（水）は、事務局はお休みです。

### 8月の会議予定

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| 8日（火） 13：00 環境委員会  | ※他の委員会などは休会です。 |
| 17日（木） 15：30 広報委員会 |                |

※下線は通常日程に変更あり。

#### 表4の写真

上：第12回定時社員総会（5月25日）、下：懇親会

